

本書は、キレイやすい子へのアンガーマネージメントの3部作の続編です。

児童・生徒への対応書としては、『キレイやすい子の理解と対応——学校でのアンガーマネージメント・プログラム』（2002年）が概論、『キレイやすい子へのソーシャルスキル教育——教室でできるワーク集と実践例』（2007年）が予防教育、『キレイやすい子へのアンガーマネージメント——段階を追った個別指導のためのワークとタイプ別事例集』（2010年、いずれも、ほんの森出版）が暴力やいじめ、不登校などの深刻化した事例についての個別対応について解説しています。

ここ数年、暴力やいじめ、発達障害のある児童・生徒への具体的な対応を学校現場で求められることが多くなり、先生方への研修を重ねるなかで本書が生まれました。

日本の学校には、学習、生活、対人関係、行事の運営、放課後活動など、子どもを健全に育てるための教育のすべてが任されているような風土があります。一方で、それを担わ

れる先生方への教員養成課程では、その内容が履修されていないことが多いのです。

先生方は現場で授業準備を進めながら、児童・生徒、その保護者への対応に日々追われています。本書を読まれた先生が、「現場対応はこうすればいいのか」と気づかれ、「これなら自分にもできそうだ」と感じられて、少しでも児童・生徒への対応に安心して取り組めるようになることを願ってやみません。

最後に、キレイにくい子には「思考力」があります。全体を見通す広い視野、これをしたらどうなるかという先を見通す力、そして、なぜこういうことが起こったのだろうと振り返る力です。

全体像が把握できれば、本書にある「認知の変容」や「別の可能性」が見えやすくなります。教室が落ち着いてきたら、ぜひ次の段階として「思考力」の育成に取り組んでください。

著 者